

原内感染为管产上以第35号

院内感染対策マニュアル改訂

H29 年 3 月末に院内感染対策マニュアルの改訂を行いました。 改訂内容については「改訂個所一覧」をマニュルにつけていますので必ず一読くだ さい。今回は大きく改訂した部分、新規追加した部分について紹介いたします。

皮膚消毒薬の新規追加および手順内消毒液の変更

〈薬剤名〉 中水準消毒剤

クロルヘキシジングルコン酸塩(略称:CHG)エタノール

※使用時の注意:粘膜禁止 ショックを起こす事例あり



🛕 改訂箇所

細菌検体採取と

提出方法

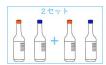
IV:

血液培養 手順

採血部位の消毒

血管部位を確認。採血部位をアルコール綿で消毒し、 その後クロルヘキシジングルコン酸塩エタノールスワ ブスティックで再消毒する。

(穿刺中心部より円を描くように 外側に向かって消毒する)



VI:

感染対策の各論 2 感染経路別 対策

1)血流感染対策

(2) 中心静脈 カテーテル 插入患者の



②挿入時

c) 挿入部位の皮膚消毒

・皮膚消毒は1%クロルヘキシジングルコン酸塩含有 エタノールを推奨する。なお粘膜への使用はショック を起こすことがあるので禁止する。

ポピドンヨードは、乾燥した時に効果があるため、 十分な時間(2分以上)おいてから挿入する。

③插入後

a) 挿入部位の管理

・ドレッシング剤の交換は、基本的に调1回、ルート挿 入部の消毒薬剤は1%クロルヘキシジングルコン酸塩 含有エタノール (スワブスティック 2 本製剤) を使用 1...2 回消毒する。

・1%クロルヘキシジングルコン酸塩含有エタノール は創面に使用した場合、アルコール刺激が強く出るた め、その場合はポピドンヨードなど他の消毒剤を使用 する。

当院採用のスワズスティック一覧



クロルヘキシジングルコン酸塩エタノール 1% S 2本入り

・CV 挿入部の消毒、血液培養時の皮膚消毒 穿刺前の皮膚消毒 粘膜使用禁止

スワブスティックポピドンヨード

・創面の消毒、穿刺前の皮膚消毒など

スワブスティックヘキシジン

- (0.05%クロルヘキシジングルコン酸塩製剤)
- 創面の殺菌消毒

ポピドンヨードエタノール液 10% (採用削除)

(10w/v%ポピドンヨード液) 血液培養時の消毒

◆ インフルエンザ 抗インフルエンザ薬の予防内服

💠 改訂簡所

処置手順

抗インフルエンザ薬の予防内服(院内からインフルンザが発生した場合)

- ・内服が可能な場合:タミフル 1カプセル(75mg)1日1回 7日間服用
- ・内服が困難な場合:イナビル吸入 20mg/1 キット 1日1回 2日間
- ※同室患者への投与は病院で費用を負担する

職員の予防投与は必要性を部署長・感染対策室・衛生委員会で検討し、 予防用に準備したタミフルを内服する

※職員同居家族がインフルエンザ罹患した場合の予防内服は対象外である。

(接触日から3日目まではサージカルマスクを着用し、手指衛生を徹底しながらの勤務可能。 症状が出現した場合は速やかに受診し、治療を受ける。)

- 創傷処置時の感染対策:新規追加
 - ☆ 内容(詳細は6月開催感染対策講習会・感染便りでご紹介します) 処置実施者と介助者の感染防止を考慮した動きを記載
 - ▶ 感染リスクの程度により2場面を設定
 - ①閉鎖創 (手術創・縫合創など)・非感染創 (感染徴候が無く体液飛散の可能性が 少ない感染創等)における創傷処置手順
 - ②感染徴候のある創、体液飛散の可能性がある大きい開放創 (熱傷・福瘡) など環 境汚染のリスクのある創、または厳密な接触感染予防策を要する菌種 (例:多剤 耐性アシネトパクター、多剤耐性緑膿菌など)が検出されている創における創傷

参考文献:日本形成外科学会感染制御対策部会創傷処置における感染防止対策(2013.4.4)

金沢医科大学氷泉市昆病院 ICT発行





